



## 【学校評議員会議】

5月26日(火)学校評議員会議を開催し、今年度の生品小学校の教育活動について説明したり、実際に子供たちが活動している様子を見ていただいたりしました。評議員の方々からは、生品小学校がとても落ち着いて学習に取り組めるようになってきていることや地域の方々に挨拶ができるようになってきていることなどのお褒めのお言葉をいただきました。

【学校評議員】 田部井行雄(区長会)様、栗原雅仁(保護司)様、

田村容子(主任児童委員)様、高橋俊雄(青少推)様、川島正俊(PTA会長)様

## 【友達トラブル・SOSの出し方】 (※昨年のすずかけの記事に加筆)

1学期の前半が過ぎました。子供たちも学級や新しい友達・先生にも慣れ、のびのびと勉強や運動に取り組んでいます。最近増えてきているのは、休み時間に起こる子供同士のトラブルです。

『みんなでボール遊びをしていたら、負けたAさんが怒ってBさんに「しねしねしね!」っていい続けてBさんが泣いちゃったよ。』とか、『追いかけてこしていたら、CさんがDさんにぶつかって転ばせたけど、謝らないで行ってしまったよ』とか・・・



通常、子ども同士で起こったトラブル、特にけんかやいじめかなと思われることについては、担任だけでなく学年の教職員が複数で聞き取りをして、解決に導く働きかけを日々行っています。その際、教師側がその場で見ていれば状況を把握した上で子ども達が納得するゴールに導けますが、誰も見ていなかった場合は、当事者や周辺の子も達に聞き取りをして、全体像をつかみます。子ども達は自分の立ち位置からわかることを話してくれますが、誤解や思い込み、勘違いもしばしば見かけます。教職員も日頃から先入観をもたずに聞き取るよう心がけていますが「完璧な真実」にはたどり着けないこともあります。だからこそたくさん話をし、子ども達同士が納得するよう働きかけます。できれば、自分で『〇〇は嫌だからやめて。』といえるようにしたり、『(ぶつかったら)ごめんなさい。』『いいよ』と言えるなど。汚い言葉を使わずに解決する習慣を身につけさせたいと考えています。



学校は教育現場です。トラブルでさえも子ども達が成長するために必要な「生きた教材」と考えます。保護者の方にとっては、スッキリしない「解決」になることがあるかも知れません。しかし、学校と家庭の大人達が同じ方向を見て協力し、未来ある子ども達の成長を支えていきたいと考えています。ご理解いただければ幸いです。ただ、不明なことや疑問については遠慮せずご連絡ください。

